

## 筑波大学ホーチミンオフィスおよび日越大学訪問

杉浦特命教授および岩本准教授は、2017年2月19日および20日にそれぞれ、筑波大学ホーチミンオフィスおよび日越大学（VJU: Vietnam Japan University）を訪問した。ホーチミンオフィスは KL オフィスの上部組織であり東南アジアのオフィスとしてより有機的に緊密な連携が必要とされる。また VJU は東南アジア地域で MJIT と同じように政府間で作られた大学であり、筑波大学も幹事大学として関与しているという共通した背景を有することから、どのように事業が進められているのか参考にすると共に、教育や研究で連携が可能かどうか調査を行った。

ホーチミンオフィスを訪問時には、ホーチミン市バイオテクノロジーセンターで感染症に関するワークショップが、ホーチミン市医薬科大学（UMPH: University of Medicine and Pharmacy, Ho Chi Minh City）で医科学英語研修が、筑波大学を主催として行われていたため、本学から多くの教職員および学生が来越していた。

ホーチミンオフィスには筑波大学現地職員の Ms. Ngo Thi Doan Phuong（フーンさん、写真）に案内して頂いた。オフィスは UMPH の医薬科 2 階にあり、白を基調とした明るく清潔感のあるオフィスであった。筑波大学のパンフレット、テレビ会議システムなどを有していた。業務については、インターン生やワークショップ等で訪れる学生や教職員のサポート、ベトナムの高校でのリクルートの他、ホーチミン市バイオテクノロジーセンターに筑波大学のラボがあることから、そこの調整が主な業務とのことであった。本オフィスは、ジャカルタオフィスが千葉大学のサテライトオフィスと共用させていただいているのに対し、ホーチミンオフィスは本学が千葉大学に共用を提供しており、それに関する業務もあるとのことであった。

VJU では Ho Nhu Hai 総務部長に案内を頂いた。VJU 設立の背景は、ベトナムでは資本主義経済の導入等を含むドイモイ政策前に行われていたソビエト型教育から脱却し、新しい教育モデルを構築するため先進国の教育システムを導入・比較しており、VJU はその流れの一つであるとのことであった。現在、日本以外にも、ドイツ、フランスおよびアメリカの政府や機関との大学が作られている。VJU の校舎は、ハノイ市の西側に位置し、My Dinh キャンパスとしてハノイ大学の校舎 3 フロアを間借りする形であった（同じ敷地にはベトナム-オーストラリアセミインターナショナルスクールがある）。リノベーションされたフロアは白を基調にした明るく清潔感があり、教室内は直線上に机が並び非常に整理整頓が行き届いていた。また全ての教室にはオンライン教育システムが導入され、オンラインで日本からの授業を聴講できるようになっていた。また My Dinh キャンパスの他にハノイから 30 分程度離れた Hoa Lac に学園都市が建築されており、5 年を目途に VJU の Hoa Lac キャンパスとして新校舎が建てられる予定とのことであった。VJU ではコースごとに幹事

校が決められており、現在は筑波大学や茨城大学を含む 7 幹事校で 6 つの修士コースが開講され、67 名の学生が在籍している。Hoa Lac キャンパスの新校舎完成後には学部、修士、博士課程でそれぞれ 9 コース、3000 人の学生数を予定している。

Ho Nhu Hai 総務部長の案内の後、栗飯原志宣講師（日本語教育、早稲田大学からの派遣）と福田祐子教務（東京大学からの派遣）と面談し、VJU と MJIIT それぞれの現状について情報提供と意見交換をした。その中で特に印象的であったのは、日本式教育はシステムティックとコーポレーションでは無いかとの意見であった。その他今後の連携についても話し合われた。

今回の訪問では、ホーチミンオフィスおよび VJU の現状について多くの知見を得た。今後の MJIIT におけるオフィス運営やベトナムとの連携に役立てていきたい。



ホーチミンオフィス前にて（左から杉浦特命教授、Ngo Thi Doan Phuong 国際連携コーディネータ）



VJUにて（左から Dang Thanh Tu VJU 副部長、Ho Nhu Hai VJU 総務部長、福田祐子 VJU 教務）



VJUにて（左から岩本准教授（文責）、栗飯原講師、福田教務、杉浦特命教授）